

## 《特集》韓国社会の対照民族誌的考察

本特集は、JSPS 科学研究費15K03033基盤研究（C）「生き方の分化・再編と交渉に関する対照民族誌的研究：韓国社会の事例を中心に」（2015～17年度）の研究成果公開の一環として企画したもので、メンバー2名の論考からなる。この共同研究では、今日の韓国社会に暮らす人びとの多様な生活経験を相互に、かつ過去の生活経験と比較対照することを通じて、様々な対称軸を発見的に模索しつつ、生き方の分化・再編と交渉について微視的かつ多面的な分析を目指した<sup>1</sup>。特に農村移住者、カトリック教会、ならびに脱北者に焦点を合わせて民族誌的資料の収集と対照民族誌的分析を行うことにより、①流動的・創発的な共同性と関係性の諸様態、②宗教的諸活動が生き方の組み立てや実践と切り結ぶ関係の諸様相について検討した。本特集には、その成果を踏まえて書き下ろされた2編の論考を収録する。

まず伊藤論文では、南北分断後の韓国と北朝鮮の民族誌の対照が試みられる。著者である伊藤亜人氏は過去6年の間に韓国珍島の民族誌〔伊藤 2013〕と北朝鮮の民族誌〔伊藤 2017〕を相次いで刊行しているが、著者の言によれば「この二つの民族誌的研究は一人の人類学徒によって行われ、どちらも参照すべき先行例があまり無いまま進められたという点では共通している」。また、著者自身が滞在調査を実施した1970年代の韓国農村においても、著者の研究協力者たちが暮らしてきた北朝鮮においても、政治的な状況によって現地研究に規制が及ぼされていた。そのような国家による規制、あるいは国家と社会（住民、市民、人民）の関係との交渉を通じて、研究の主題だけでなく研究方法（資料収集の方法と分析・認識の視角）が模索されてきたことが、この論考からうかがえる。

この論文では、初発条件と開発、新たな規範体系、居住の流動性、属人主義と地域社会、地域経済と市場、相互扶助の慣行といった小主題を設定して、著者が現場で経験した、あるいは著者の示唆を受けた当事者たちによって記された社会・文化的諸事象が対照的に考察される。その違いは当然大きい、他方で緩やかな共通性、また相互に対照することによって浮かび上がる特徴も見られる。さらに結びで「研究とか情報自体が〔中略〕制度的な枠組みと一体になっている」と整理するように、この2種類の民族誌の対照は、社会・文化の比較研究に留まらず、自身の民族誌的研究に対する省察という再帰性（reflexivity）をも帯びる。「こうして敢えて対照してみることによって、南北両社会が地政的条件の下でどちらも厳しい状況に置かれてきたことに改めて自覚を迫られる機会となった」。「ノートにも記さず正面から話題とするのも避けてきたさまざまな経験や記憶も、時間を経るとあらためて民族誌的事実として次々と思い起こされる」。このような伊藤氏の記述からも、民族誌の対照的考察とは、多様なレベルでの一般化に支えられた個別特殊性の同定〔本田論文参照〕に留まらず、自身の民族誌的研究の実践をも省察的に捉えなおす契機となりうる、さらにいえば、民族誌的研究においては、フィールドの諸条件と民族誌的作業（観察・記録と記述・分析）とが、人類学者の実践において分かちがたく結びついていることがわかるであろう。

一方本田論文では、「共同体」(공동체) という用語で近年包括的に捉えられるようになった

<sup>1</sup> 1990年代後半以降の韓国社会における人々の生き方の分化・再編については、本紀要第15号（2016年）の特集「韓国社会の生き方——早期留学、改宗、農村移住」〔仲川・秀村・本田 2016〕を参照のこと。

ローカルな諸関係と諸活動に焦点を絞り、1980年代末の農村住民、1990年代末以降の農村移住者、そして近年の地方都市住民の民族誌事例が対照的に考察される。今日の韓国社会における「共同体」に向けられた実践と表象に関する記述・分析の枠組みの再考を試みたこの論考では、社会資本の形成・蓄積、空間／社会移動の軌跡の交錯、ならびに実践感覚としてのコミュニティ感覚と生きられた経験を軸として、3つの事例の比較対照が行われる。その基底にあるのは、当事者と研究者自身による主観主義的／客観主義的認識の再認識（客観化）で、伊藤論文とはまた異なる切り口から、研究者による民族誌的实践が省察的に捉えなおされている。

いま一人のメンバーである秀村研二氏は、自身が1980年代後半から精力的に実施してきた韓国のプロテスタント教会の民族誌的研究と対照しつつ、この共同研究では主にカトリック教会の民族誌的研究にあたった<sup>2</sup>。諸般の事情によりこの特集への寄稿はかなわなかったが、その成果は、いずれ本特集の続編として発表される予定である。

（本田洋）

## 参考文献

秀村研二

2019「聖ベネディクト会修道院と韓国の一地域社会——韓国慶尚北道漆谷郡倭館邑への定着過程をめぐって——」『明星大学全学共通教育 研究紀要』1, pp.81-86.

伊藤亜人

2013『珍島—韓国農村社会の民族誌』弘文堂.

2017『北朝鮮人民の生活—脱北者の手記から読み解く実相—』弘文堂.

仲川裕里・秀村研二・本田洋

2016「《特集》韓国社会の生き方——早期留学、改宗、農村移住」『韓国朝鮮文化研究』15, pp.1-66.

<sup>2</sup> その成果の一端は、秀村 [2019] を参照のこと。